

国語 第2学年 せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書く

検討会の想定問答

指摘 1：読むことと書くことのどちらがねらいなのか。本時のねらいが曖昧ではないか。

返し：読むこと6時間と書くこと8時間を組み合わせた単元で、読むことの中心はC(1)ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選ぶこと」、書くことの中心はB(1)ウ「内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること」。二つを結ぶのが〔知識及び技能〕(2)アの「事柄の順序」。本時は読むことの時間で、C(1)ウだけを評価する。

指摘 2：評価規準は何か。どこで見るのか。

返し：3観点で書き、文末と書き方は国立教育政策研究所の参考資料の形に合わせた。思考・判断・表現は、読むことと書くことの中心の指導事項を一つずつ評価規準にした。知識・技能①は第3時と第6時のワークシートとノート、思考・判断・表現①は本時のワークシートと発言、②は第10・11時の文章、態度①は第1時の発言と第12時の見直し、第14時の振り返りで見ると。内容の大体を捉える学習（C(1)ア）や組み立てを考える学習（B(1)イ）は指導するが、記録に残す評価は中心の二つに絞った。

指摘 3：言語活動は何か。

返し：読むことはC(2)ア「事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動」、書くことはB(2)ア「身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動」に当たる。自分で作った経験を基に、作り方を説明する文章を書く。

指摘 4：個に応じた指導はどうするのか。

返し：本時では、線を引けない子に作ったおもちゃを持たせて、作った順に「どの文を見たか」を聞く。書く時間には、「どこを」「どのくらい」「どのように」のカードと、まとまりごとの書き出しを書いた用紙を用意する。早く終わる子には、こつや気を付けることを書き足させる。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 5：ICTは使わないのか。

返し：二つ考えている。おもちゃを作る手順を端末で写真に撮り、書く時に手順を思い出す手がかりにすること、書いた文章に写真を入れること。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。写真を撮るのは手順の記録のためで、写真だけで説明しないように、文で書く欄を先に作る。

指摘 6：国語の時間におもちゃを作るのはおかしくないか。

返し：国語の時間に作るのは、説明の文が作る人にどう役立つかを確かめるためで、作ること自体が目的ではない。作る時間を短くしたい時は、生活科のおもちゃ作りと時間を合わせる。第3の1(7)に、低学年では他教科等との関連を積極的に図るとある。

指摘 7：教科書の手引きどおりでいいのか。

返し：手引きは指導要領の指導事項に沿って作られているので、外す理由はない。この指導案は指導事項から組んであり、手引きと同じ流れで使える。工夫した所は、実際に作ってから重要な語や文を選ぶことと、書いた文章を友達に作ってもらって確かめること。第3の3(3)に、説明的な文章では図表や写真などを含むものを取り上げるとあり、写真と文の対応も扱う。

指摘 8：14時間は多い。時間が足りない。

返し：14時間は光村図書の年間指導計画例の配当。削るなら、第4時の作る時間を生活科と合わせ、第9時と第10時を一時間にする。書くことは、第3の1(5)で第1学年及び第2学年に年間100単位時間程度を配当としているので、書く時間は削りすぎないようにする。配当は学校の年間指導計画に合わせる。

指摘 9：発問が多すぎないか。

返し：本時の中心発問は「この言葉がなかったら、作る時にこまるのはどれですか」の一つ。抜いた文との比べと、段落の初めの文の問いは、中心発問で出た考えを確かめるための問い。板書には中心発問だけを書く。

指摘 10：板書はどう使うのか。

返し：作り方の段落を拡大して貼り、子どもが選んだ語や文に線を引き、抜いた文と並べて違いが目で見えるようにする。読む時間に見付けた工夫は「せつめいのひみつ」として単元の終わりまで掲示し、書く時間に一つずつ使う。読んだことと書くことがつながって見えるようにするため。

指摘 11：振り返りは何を書かせるのか。

返し：読む時間は「大事だと思った語や文と、そのわけ」と「自分が書く時に使いたいこと」の二つ。書く時間は「せつめいのひみつのどれを使ったか」と「友達に作ってもらって分かったこと」の二つ。どちらも、読んで見付けた工夫を書く時に使えたかを見るため。

指摘 12：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第1学年及び第2学年〕2内容C読むこと(1)ア・ウと(2)ア、B書くこと(1)ア・イ・ウ・エ・オと(2)ア、〔知識及び技能〕(2)ア、学年の目標(2)(3)。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

